

# 宮崎方言における形容詞の一段活用化

—その発生要因と宮崎県南部域の現況—

早野 慎吾

田中利砂子

## 1. はじめに

九州西部方言の特徴的な現象として、タカカ(高い)・ウマカ(上手い)などのカ語尾形容詞がある。室町時代の日本語を知るための貴重なキリシタン資料であるロドリゲス『日本大文典』(1608)には肥前・肥後・筑後の特徴として語尾の I (イ) が Ca(カ)に変わることが記載されている(土井 1955 : p.610)。九州東部方言はイ語尾地域であるが、イ語尾地域に属する宮崎県を中心に無活用化(糸井 1969)、単語中心活用(日野 1986)、挿け替え型(大西 1997)などと呼ばれる現象が観察できる。これは形容詞の終止形を語幹として活用するものである。例えば「高い」では take(高い)・take-katta(高かった)・take-ne(高くない)・take-naru(高くなる)・take-kerya(高ければ)のようになる。このような活用を本発表では形容詞型一段活用と表現することにする。この形容詞の一段化は東北地方と九州南東部に観察できる現象で ABA 分布をなしている。本発表では国立国語研究所編(1994)『方言文法全国地図』第3集(以下、GAJ3)から全国的な状況を分析し、さらに宮崎県における一段化発生のメカニズムについて考察する。また、都城市および宮崎市で行った多人数調査をもとに、宮崎県南部域の現況について報告する。

## 2. 術語について

糸井(1969 : p.260)では大分県の若年層方言について「いわゆる形容詞の無活用化の傾向が著しい」とある。この無活用化という表現は、活用形が統合されて従来の活用が無くなっていく現象であることは理解しやすいが、活用の種類の説明に不適切である。また、活用そのものが無くなるのではない。日野(1986 : p.299)では自立的な語形である終止形を「単語」と見ることによって単語中心活用と表現している。単語という概念は、通常、活用語尾を含めて単語と認定するものである。つまり、単語中心活用とすると、単語という概念と活用という概念が矛盾することになる。大西(1997 : p.516)では活用の頭にあたる部分が挿け替えられているかのように見えるとして挿け替え型と表現しているが、これは現象を説明したもので活用の種類を表現したのではない。そこで、本稿では、形容詞で終止形を語幹として活用するものを形容詞型一段活用と表現する。また、従来の活用から形容詞型一段活用へと変化してきている過程を、形容詞の一段化と表現する。

## 3. 全国分布図

図1はGAJ3の「図137 高くない(否定形)」「図138 高くて(～て形)」「図139 高くなる(～なる形)」「図141 高かった(過去形)」「図143 高ければ(仮定形1)」から作成したものである(標準語において終止連体形が出現する「図136 高い(物)(連体形)」「図142 高いだろう(推量形)」「図144 高いなら(仮定形2)」は除いた)。takai およびその音韻変化した語形(takee、tagee など)が出現した場合に1点とし、地域ごとの平均値を合計したものである(注1)。5種類の活用

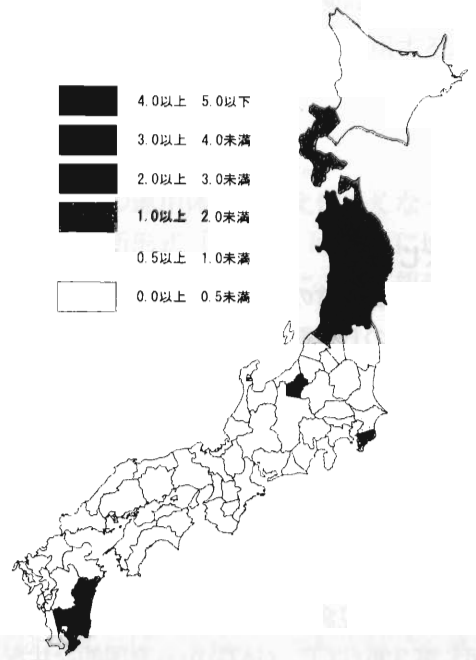
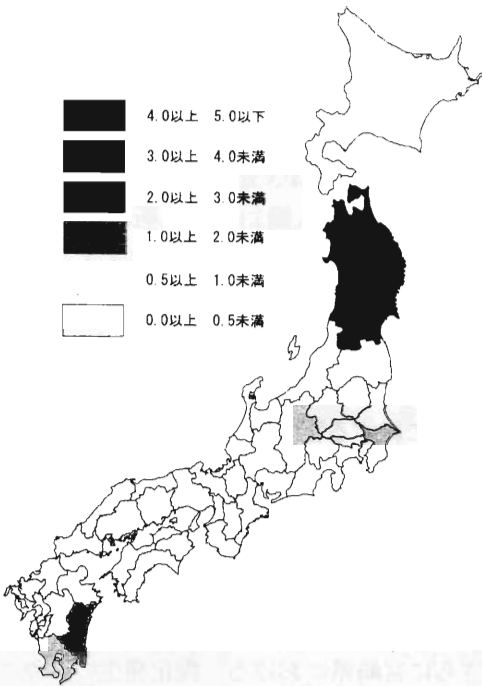


図1 「高い」の一段化が見られる地域(県別)

図2 「高い」の一段化が見られる地域(細分化)

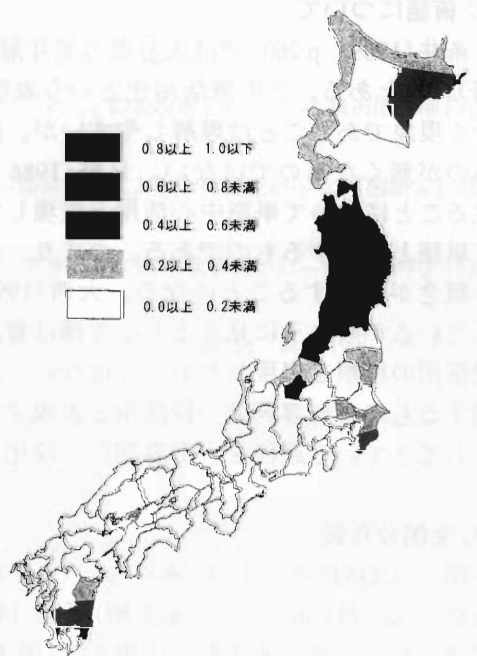
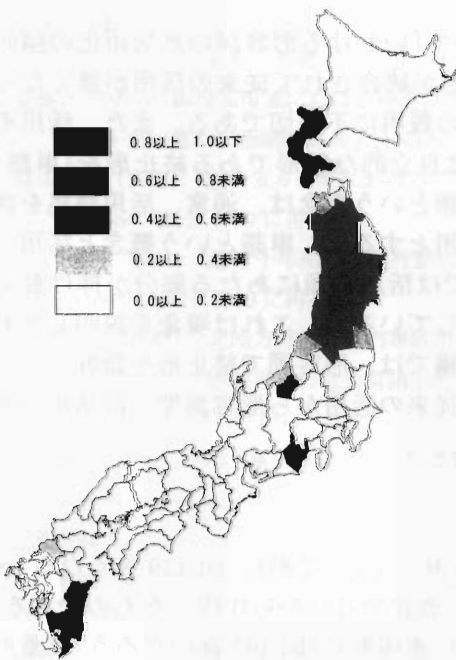


図3 高かった(過去形)

図4 高ければ(仮定形)

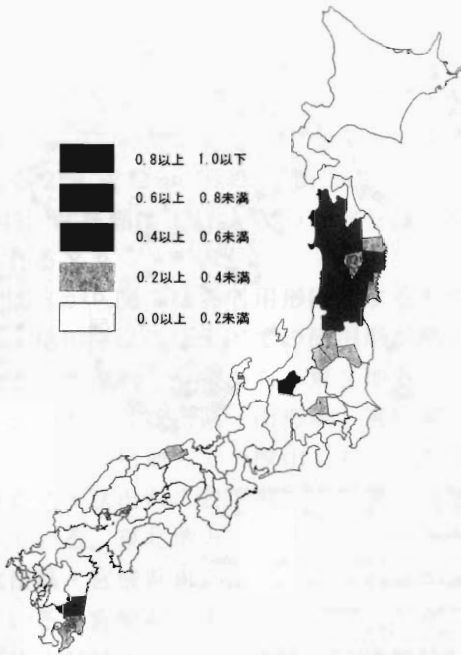


図5 高くて(テ形)

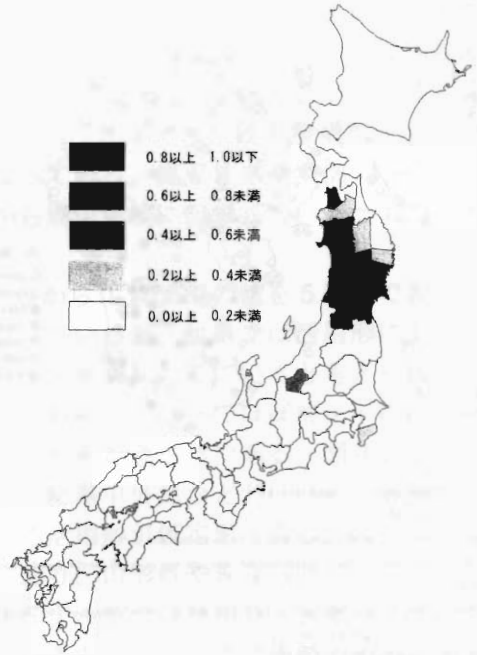


図6 高くなる(ナル形)

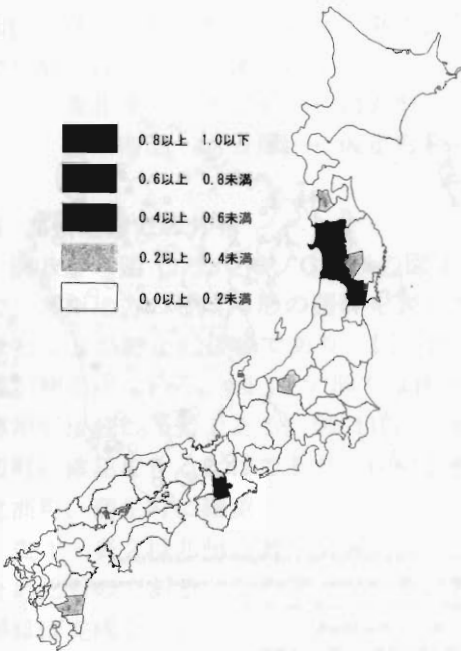


図7 高くない(否定形)

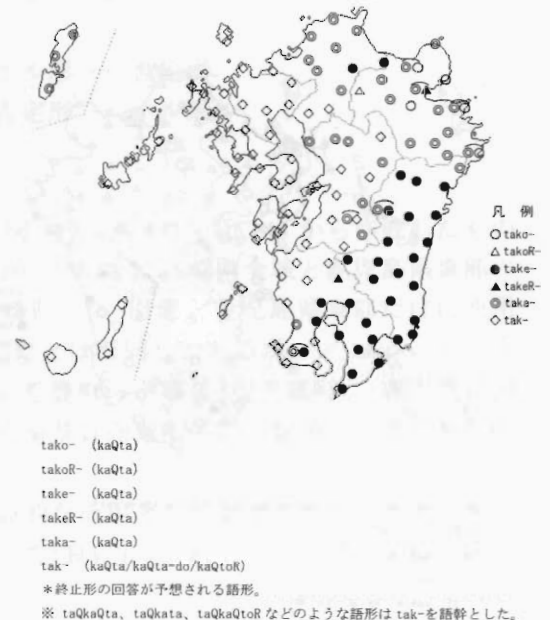


図8 高かった(過去形(九州))



形の合計なので 0 点から 5 点までの値をとる。最高値は秋田県の 4.48 であり、秋田県を中心として山形県・宮城県では一段化がほぼ完成しているといえる。宮崎県と鹿児島県東部でも一段化が進行しており、宮崎県は 1.92 で東北の岩手県 2.26、青森県 2.09 とほぼ同程度の値となっている。図 2 は、図 1 をさらに細分化したものである<sup>(註2)</sup>。秋田県から宮城県北西部にかけての地域がもっとも数値が高くなっている<sup>(註3)</sup>。九州では宮崎県中央部がもっとも高く 2.71 となっており、南部 2.03、北部 1.07 となっている。鹿児島県南東部(大隅半島)は 1.43、北東部は 1.31 となっており、宮崎県中央部から周辺地域に伝播していったものと考えられる。

図 3 から図 7 は各活用形に関するものである。0 点から 1 点までの値を 5 段階で表している。秋田県はほぼすべての活用形が終止形接続となっているが、他県では活用形によって異なる。地理的な分布から、東北地方では秋田県から使用域が拡大していると考えられる。図 3 過去形では秋田県・山形県・宮城県・宮崎県・鹿児島県東部などでほぼ終止形接続となっている。九州地方で一段化がもっとも進行している活用形が過去形である。図 4 仮定形では青森県・秋田県・岩手県・山形県・宮城県北西部・宮崎県中央部などがほぼ終止形接続となっている。東北地方で一段化がもっとも進行している活用形が仮定形である。図 5 テ形では秋田県・宮城県東部などでほぼ終止形接続となっており、山形県や青森県西部で優勢となっている。宮崎県・鹿児島県東部での勢力は弱い。図 6 ナル形では秋田県・宮城県北西部がほぼ終止形接続となっている。山形県ではやや優勢で岩手県・青森県では劣勢である。図 7 否定形では秋田県で優勢で、その他の地域ではほとんど使用されていない。関西の奈良県中央部で *takainai* の使用例が数例ある。九州南部ではテ形、ナル形、否定形までは一段化が進んでいないことが確認できる。図 3 から図 7 までの地域的な広がりから、一段化は次のような順位で進行したと考えられる。東北、九州ともに仮定形と過去形は一段化が起りやすく、ナル形、否定形では起きにくい。

東北地方：仮定形 → 過去形 → テ形 → ナル形 → 否定形

九州南部：過去形 → 仮定形 → テ形 → 否定形 → ナル形

#### 4. 九州地方での分布

J

図 8 から図 12 までは、GAZ3 の図 137・図 138・図 139・図 141・図 143 から作成したもので、九州地方の各活用形の語幹を表している。図 8 過去形では宮崎県全域と鹿児島県東部のほとんどが終止形接続であり、図 9 仮定形では宮崎県中央・南部と鹿児島県東部だけに使用域が狭まっている。図 10 テ形では使用地域は仮定形とほぼ同じであるが、/*tako-*/という連用形接続が優勢である。図 11 ナル形では宮崎県都農町、南郷村(現美郷町)、鹿児島県川辺町に確認できるだけであり、図 12 否定形では宮崎県日向灘沿岸部の数地点と鹿児島県内之浦町、蒲生町に確認できるだけである。

表 1・表 2 は九州方言学会編(1969)で各県の代表的な活用として記述されているものをまとめたものである。このデータから、宮崎県において「良い」「うれしい」に関しては一段化がほぼ完成していたことがわかる。

#### 5. 発生のメカニズム

図 1 において一段化が起きている地域は大西(1997)の指摘通りシラビーム方言域(柴田

1962)である。つまり、形容詞末尾の連母音が融合し、さらに短音化している地域である。もっとも大きな要因は、この形容詞終止形語尾の短音化であると考えられる(この現象は終止形末尾が連母音とならないカ語尾では起こらない)。当然、東北地方もイ語尾である。たとえば「高い」では、終止形(終止連体形)が / take / となると語幹 / taka- / と終止形が同じ2音節となり、独立性の強い終止形と語幹との区別が希薄になる。語幹の独立性が強くなると、活用語尾は語幹との結びつきよりも後接する助動詞との結びつきの方が強くなる。そして、記憶の合理化が働き活用形の統合化が起こる。宮崎方言ではまず過去形が終止形と統合した。過去形タカカッタがタケカッタとなると、次のような関係になる。

taka kaQ ta take kaQ ta

形容詞(語幹)-(語尾)-助動詞 → 形容詞(語幹)-助動詞(語尾)-助動詞

/-kaQta / は語尾的な助動詞として、独立性が強いものとなっている(注4)。九州方言学会編(1969)では「行かなかった」に対応する「行カンカッタ」が九州では宮崎県南部で発生していることが確認できる。これなども /-kaQta / が終止形接続するという方言的特徴が既にあったことが関係していると思われる。仮定形で一段化が起きたことには、音韻的な要因も考えられる。つまり、ケレバの ke が影響した逆行同化である。

また、大西(1997)でも指摘されているが、/ take / が語幹になるとシク活用との体系性が高くなる。このことも一段化に影響していると思われる。

高い	take	take-kaQta	take-kerya
うれしい	uresi	uresi-kaQta	uresi-kerya

「高い」と「うれしい」の活用の違いは語幹(終止形)末尾の母音だけになる。この場合、動詞の例に従えば、「高い」は語幹末尾が e となる形容詞型下一段活用、「うれしい」は語幹末尾が i となる形容詞型上一段活用と表現することができる。従来のク活用は、「赤い・高い」の形容詞型下一段活用、「黒い・良い・濃い・悪い」などの形容詞型上一段活用に分かれることになる。従来のシク活用は上一段活用に統合されることになる。

宮崎県小林市では「良い」はカ語尾になるが、この語においても一段化が起きている。ユーシテ(テ形)がヨカシテ、ユーナル(連用形)がヨカナルに変化してきている(注5)。つまり、ヨカを語幹とした一段化である。カ語尾とイ語尾の境界線地域にある鹿児島県蒲生町と川辺町ではテ形にタケカッセ(カ語尾とイ語尾のコンタミネーション)が観察できる。大分県佐賀関町(現大分市)や米水津村(現佐伯市)などでは連用形タコーを語幹とした一段化が起きている。大分県は GAJ3 では終止形での一段化の例は少ないが、九州方言学会編(1969)では終止形での一段化について記述がある(逆に連用形での一段化に関する記述はない)。早田(1982)では臼杵市方言のタケカッタとタコカッタを併用している話者の例が紹介されている。連用形における一段化も、終止形による一段化が影響しているものと思われる。

## 6. 談話における一段化

NHK 編『全国方言資料 第6巻 九州編』から、形容詞が終止形接続している使用例(ク活用形容詞)を抽出すると表3のようになる(地点は資料1参照)。分母がその活用形の出現数、分子がそのうちの終止連体形(注6)となっている場合の出現数で、括弧の中は%である。宮崎県日南市で過去形9例(9/10)、仮定形3例(3/3)の用例があり、宮崎県南部で過去形から一段化が発生していることが、1890年代生れを主な話者とした談話資料からも確認できる。鹿児島市では

表1 「良い」の活用(ク活用)

標準語形	よ い	よい(人)	よく(なる)	よければ	よかった	よくて
福岡県	ヨカ エー	ヨカ エー	ヨ一	ヨカリヤ ヨケリヤ	ヨカッタ	ヨ一シテ
佐賀県	ヨカ	ヨカ	ヨ一 ユ一	ヨカギー	ヨカッタ	ヨ一シテ ユ一シテ
長崎県	ヨカ	ヨカ	ヨ一	ヨカレ(バ) ヨカナラ	ヨカッタ	ユ一シテ
熊本県	ヨカ エー	ヨカ エー	ヨ一 ユ一	ヨカナラ ヨカレバ	ヨカッタ	ヨ一シテ
鹿児島県	ヨカ エ	ヨカ エ	ユ	ヨカヤ ヨカレバ	ヨカッタ	ユシテ
宮崎県	イー	イー ヨカ	イー ユ	イーケリヤ	イカッタ	イーシテ
大分県	イー	イー	ユ一	ヨケリヤー ヨカリヤ	ヨカッタ	ユ一ジ

九州方言学会編(1969)より

表2 「うれしい」の活用(シク活用)

標準語形	うれしい	うれしい(人)	うれしく(なる)	うれしければ	うれしかった	うれしくて
福岡県	ウレシカ ウレシー	ウレシカ ウレシー	ウレシユ一	ウレシカリヤ ウレシケリヤ	ウレシカッタ	ウレシユ一シテ
佐賀県	ウレシカ	ウレシカ	ウレシユ一	ウレシカギー	ウレシカッタ	ウレシユ一シテ
長崎県	ウレシカ	ウレシカ	ウレシユ一	ウレシカレ(バ) ウレシカナラ	ウレシカッタ	ウレシユ一シテ
熊本県	ウレシカ	ウレシカ	ウレシユ一	ウレシカナラ	ウレシカッタ	ウレシユ一シテ
鹿児島県	ウレシカ ウレシ	ウレシカ ウレシ	ウレス ウレシ	ウレシカヤ ウレシカレバ	ウレシカッタ	ウレスシテ
宮崎県	ウレシー	ウレシー	ウレシユ (ウレシ)	ウレシケリヤ	ウレシカッタ	ウレシユシテ (ウレシシテ)
大分県	ウレシー	ウレシー	ウレシユ一	ウレシケリヤー ウレシカリヤ	ウレシカッタ	ウレシユ一ジ

九州方言学会編(1969)より

表3 『全国方言資料 第6巻 九州編』に見られる形容詞ク活用の一段化

		否定形	推量形1 (-ダッカ)	推量形2 (-ダロ)	連用形 (用言)	過去形 (-ッタ)	終止形	連体形	仮定形1 (-ナバ)	仮定形2 (-ナレバ)
福岡県	福岡市博多①	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/2 (0%)	0/7 (0%)	0/1 (0%)	4/4 (100%)	2/4 (50%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)
	三井郡善道寺町②	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/2 (0%)	0/8 (0%)	0/6 (0%)	3/6 (50%)	15/17 (88.2%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)
	築上郡岩屋村鳥井畑③	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/3 (0%)	0/12 (0%)	0/9 (0%)	16/16 (100%)	15/15 (100%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)
佐賀県	佐賀郡久保泉村川久保④	0/1 (0%)	1/1 (100%)	0/5 (0%)	0/13 (0%)	0/3 (0%)	5/19 (26.3%)	0/10 (0%)	0/1 (0%)	0/0 (0%)
	東松浦郡有浦村⑤	0/1 (0%)	0/0 (0%)	0/4 (0%)	0/11 (0%)	0/19 (0%)	0/23 (0%)	1/17 (5.9%)	0/1 (0%)	0/0 (0%)
長崎県	南高来郡有家町⑥	0/2 (0%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/9 (0%)	0/3 (0%)	0/2 (0%)	4/16 (25%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)
	北松浦郡中野村⑦	0/2 (0%)	0/0 (0%)	0/1 (0%)	0/9 (0%)	0/20 (0%)	1/8 (12.5%)	5/27 (18.5%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)
熊本県	熊本市中唐人町⑧	0/4 (0%)	0/0 (0%)	0/2 (0%)	0/19 (0%)	0/8 (0%)	0/7 (0%)	4/11 (36.4%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)
	上益城郡浜町⑨	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/2 (0%)	0/9 (0%)	0/4 (0%)	1/13 (7.7%)	7/16 (43.8%)	0/0 (0%)	0/2 (0%)
大分県	大分郡西庄内村⑩	0/1 (0%)	0/0 (0%)	0/2 (0%)	0/11 (0%)	0/2 (0%)	16/16 (100%)	24/24 (100%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)
	南海部郡上野村⑪	0/5 (0%)	0/0 (0%)	0/1 (0%)	0/13 (0%)	0/4 (0%)	29/29 (100%)	20/20 (100%)	0/0 (0%)	0/1 (0%)
宮崎県	日南市鉄肥町⑫	0/2 (0%)	0/0 (0%)	1/1 (100%)	0/19 (0%)	9/10 (90%)	15/15 (100%)	10/10 (100%)	0/0 (0%)	3/3 (100%)
	東臼杵郡南方村⑬	0/2 (0%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/8 (0%)	2/6 (33.3%)	15/15 (100%)	14/14 (100%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)
鹿児島県	鹿児島市⑭	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/14 (0%)	3/6 (50%)	2/9 (22.2%)	2/12 (16.7%)	0/0 (0%)	0/1 (0%)
	枕崎市鹿籠⑮	0/1 (0%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/19 (0%)	0/2 (0%)	3/7 (42.9%)	7/22 (31.8%)	0/0 (0%)	0/1 (0%)
	肝属郡高山町鷹⑯	0/0 (0%)	0/0 (0%)	0/1 (0%)	0/10 (0%)	0/0 (0%)	8/14 (57.1%)	5/10 (50%)	0/0 (0%)	0/0 (0%)

過去形で3例(3/6)、宮崎県東臼杵郡南方村(現延岡市)では2例(2/6)確認できるが、現在使用が確認できる大分県や福岡県東部での用例は確認できない。また、大分県での連用形による一段化も確認できない。日南市の用例は次のようなものである。話者は1902年生(m)と1900年生(f)の二人である。

(過去形)

- 1 ヨユーガ ネカッタムンナ(余裕がなかったものね)
- 2 イエレカッタムンナー(大変だったものねえ)
- 3 ナカナカ ヌキカッタナー(たいそう 暑かったねえ)
- 4 ヌキカッタナー(暑かったねえ)
- 5 ハイエカッタナ ソラ(早かったですね それは)
- 6 イエロ ハエカッタナー(ずいぶん 早かったねえ)
- 7 キョー イエレカッター(きょうは たいへんだったよ)
- 8 ヌキカッタロガー(暑かったでしょうね)
- 9 ヌクシ イエレカッタ(暑いし たいへんだった)

(仮定形)

- 10 イエロ オイケリヤ ネド(そう 多くはないよ)
- 11 チットデン イケリヤ モッチキネー(少しでも よければ 持って行きなさい)
- 12 ジューニジノコロジャ ネケリヤ(12時のころでない)

(推量形)

- 13 ンニヤ ハイエカロカ(いや 早いものか)

マエントヨナ オーキー ナッタ オラン ンー オーキューネーケ(ン)ドン

(以前のような 大きくなるのはない、大きくはないが)

この例は、連用形が一段化しているように見えるが、このオーキーは形容動詞であり(註7)、連用形が一段化している例ではない。

バサンノナー ユネカッタゲナガー(ばあさんがね よくなかったそうですが)

また、この例のように助動詞ナイも一段化している。出現率が低いので『全国方言資料』からは確定できないが、宮崎市源藤町および大塚町の高年層を対象とした調査(註8)では、「良い」「ない」において一段化がほぼ完成しており(資料2)、「良い」「ない」の2音節形容詞において先に一段化が起きたのではないかと思われる。「良い」「ない」の2音節形容詞で終止形語尾が短音化すると、1音節になり、単語と語幹の区別がもつともなくなりやすいためと考えられる。

## 7. 世代差調査から一宮崎県南部域の現況一

宮崎県都城市(2006年合併前の旧都城市)と宮崎市(2006年合併前の旧宮崎市)において世代差調査を行った。都城市は2005年6月から8月にかけて、134名に対して行った。また、宮崎市調査は2006年9月、63名に対して行った(詳しくは早野(2007b)を参照されたい)。表4から表9は「高かった(過去形)」「高くて(テ形)」に関する調査結果である。宮崎市は話者数が少ないので、若年層(20-30代)、活躍層(40-50代)、高年層(60-70代)にまとめて提示する。「高かった(過去形)」に関しては都城市、宮崎市ともに / take-kaQta / であったものが、標準語形



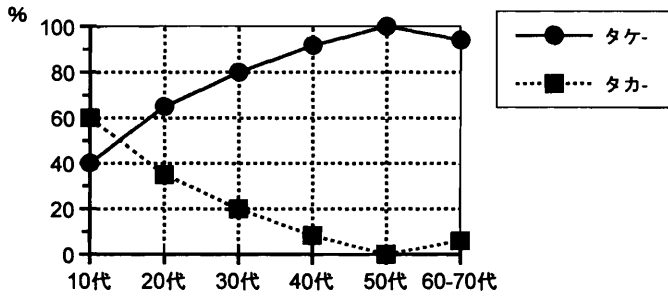


表4 「高かった(過去形)」語幹(都城市)

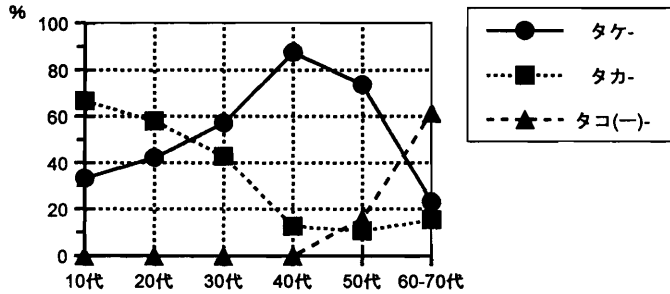


表5 「高くて(テ形)」語幹(都城市)

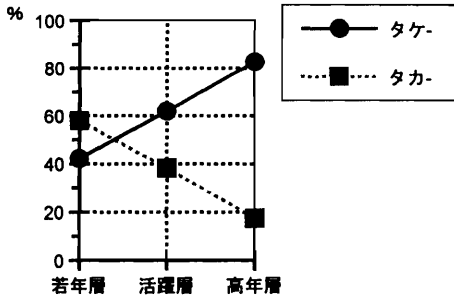


表6 「高かった(過去形)」語幹(宮崎市)

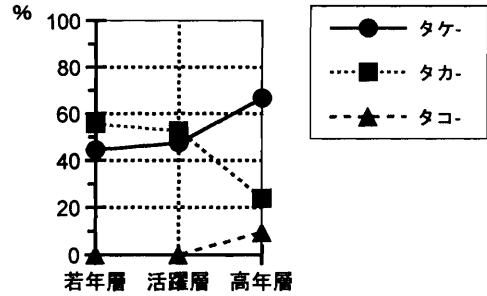


表7 「高くて(テ形)」語幹(宮崎市)

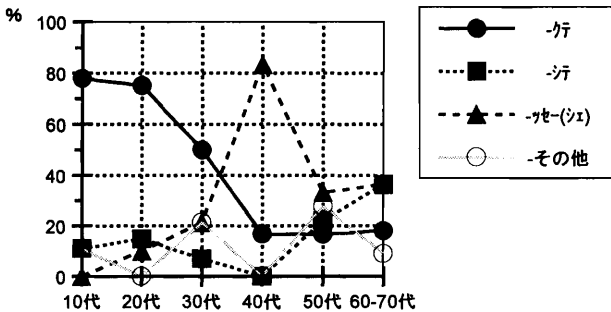


表8 「高くて(テ形)」語尾(都城市)

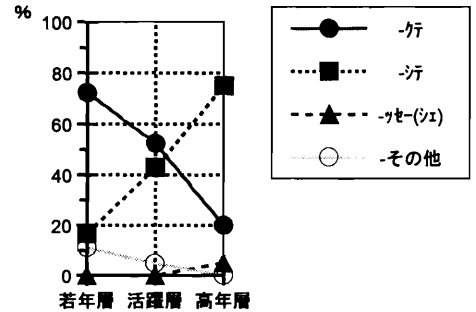


表9 「高くて(テ形)」語尾(宮崎市)

／ taka-kaQta ／に変化してきていることがわかる。「高くて(テ形)」に関しては GAJ3 で優勢であった連用形のウ音便形／ tako-／が 60 代以上でしか使用されていないことがわかる。~~もともと~~一段化しづらいと思われたテ形が、40 代 50 代で急激に一段化していることが表 5・表 7 からわかる。しかし、若年層では、都城市、宮崎市ともに標準語形／ taka-／が優勢となっている。テ形の語尾に関しては／-site ／→／-Qsse ／→／-kute ／と変化してきている。全体としては次のようになる。

tako-site → tako-Qsee(sye) → take-Qsee(sye) → take-kute → taka-kute  
 (音韻変化) (一段化) (ネオ方言化) (標準語化)

／ take-kute ／は標準語の影響を受けたネオ方言形である。この／-kute ／は活用語尾+助詞というよりも、／-kute ／で一つの単位を成していると考えられる。宮崎方言では形容詞語幹の独立性が強いために、活用語尾が次に接続する助詞や助動詞とさらに強く結びつくものと考えられる。宮崎県で安くデ買えた(安く買って買えた)、高くデ売れた(高く売れた)などの〜クデが発生してきている。これは、話者意識としては標準語であるが地域差のある疑似標準語形であり、さらに新たに発生してきた形式なので新疑似標準語形といえる(早野 2007a)。この現象も、活用語尾+助詞の一体化が関係していると思われる。

活用語尾が後接する助詞・助動詞と一体化することは、首都圏でも観察できる。首都圏ではヘンクテ(変で)、ヘンクナイ(変ではない)、キレークナイ(きれいではない)などの新方言形が発生してきている(早野 1996)。これらは活用語尾が語幹よりも次に続く助詞・助動詞と強く結び付いているために起きる現象であると考えられる。

## 8. おわりに

ここでは、従来無活用化と呼ばれていた形容詞終止形への統合現象を一段化と表現し、九州における現象を中心に、その発生要因と現況について考察した。また、宮崎市方言では形容動詞(ナ形容詞)においても一段化が観察できる(資料 2)。たとえば「静か」ではシズカナ(静かだ)・シズカナカッタ(静かだった)・シズカナケリヤ(静かなら)のようになる。この現象についても、形容詞の一段化とあわせて詳しく分析する必要がある。

### 【注】

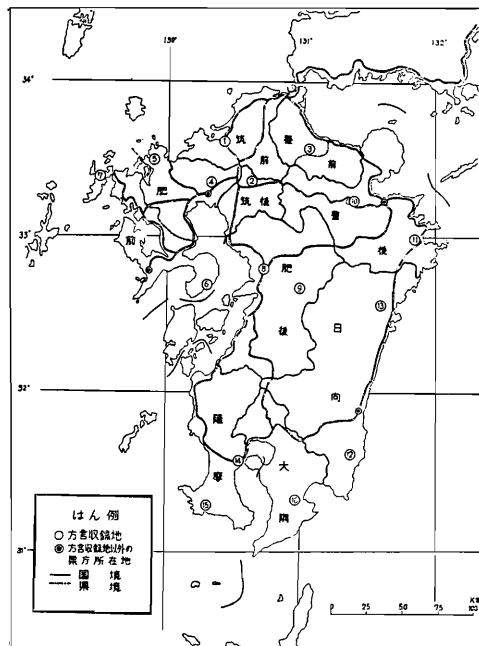
- 1) 基本的に終止連体形が出現しない質問項目でも、終止連体形の出現が前提となる回答もある。たとえば、「高くて」において takee-kara、takee-node のような回答例がある。このような回答は母数から外して算出している。
- 2) 各県で 5～7 地点ごとに区切り集計している。
- 3) GAJ3 では確認できなかったが、早野(1992: p.58)では茨城県玉造町で形容詞の一段化が起きていることが確認できる。また、筆者らが 2007 年 8 月に行った栃木県益子町調査でも一段化が確認できた。北関東においても一段化が進行している。
- 4) 岩本(1964)において、仮定形語尾のケリヤが、日向方言においては活用語尾ではなく、一種の辞になっていることが指摘されている。
- 5) 2008 年 3 月、4 名に対して行った調査。話者は s17(m)、s22(f)、s44(m)、s44(f) 年生。
- 6) ここでいう終止連体形とは takai およびその音韻変化した語形(takee、tagee など)を指す。

- 7) 木部暢子氏にオーキニナルから変化したもののご指摘を頂いた。  
 8) 2007年7月から8月にかけて行った調査。

【参考文献】

岩本実(1957)「宮崎県諸県方言の素描」『宮崎大学学芸学部研究時報』1-3  
 岩本実(1964)「日向の高千穂方言」『宮崎大学学芸学部紀要』17  
 糸井寛一(1969)「大分」『九州方言の基礎的研究』風間書房  
 大西拓一郎(1997)「活用の整合化—方言における形容詞の「無活用化」、形容動詞のダナ活用の交替などをめぐる問題—」『日本語の歴史地理構造』明治書院  
 日野資純(1986)『日本の方言学』東京堂  
 九州方言学会編(1969)『九州方言の基礎的研究』風間書房  
 国立国語研究所編(1994)『方言文法全国地図 第3集』大蔵省印刷局  
 柴田武(1962)「音韻」『方言学概説』武蔵野書院  
 日本放送協会編(1966)『全国方言資料 第6巻九州編』日本放送協会  
 早田輝洋(1982)「パラダイムにおける方言と共通語—大分県臼杵市方言の形容詞の場合—」『アジア・アフリカ文法研究』10  
 早野慎吾(1992)「文法」『地域言語と文化—玉造のことば—』玉造方言研究グループ  
 早野慎吾(1996)『首都圏の言語生態』おうふう  
 早野慎吾(2007a)「宮崎県の言語動態—宮崎県南部域を中心として」『国文学 解釈と鑑賞』72-7  
 早野慎吾(2007b)「九州方言における二段活用の現況—宮崎県南部域の調査から—」『Ars Linguistica』14  
 J.ロドリゲス(土井忠生訳注)(1955)『日本大文典』三省堂

《資料》1



『全国方言資料 第6巻 九州編』収録地略図

《資料》 2

宮崎市方言(a:57m, b:66m, c:67m, d:68m, e:70m, f:71m) aは宮崎市大塚町、b～fは宮崎市源藤町の話者

	高い	良い	ない	静か	元気	きれい	濃い
終止形	タケ(a.b.c.d.e.f)	イ(→)(a.b.c.d.e.f)	ネ(→)(a.b.c.d.e.f)	シズカジャ(e) シズカヤ(b) シズカナ(a.b.d.f) シズカド(c)	ゲンキナワ(ド)(a.b.f) ゲンキジャ(a.d) ゲンキ(c)	キレージャ(e)	コイ(→)(a.b.c.d.e.f)
推量形 a	タケジャロ(c.d) タケヤロ(a.b.f) タケツチャネカ(f) タケツチャネドカイネ(e) タケツチュハナツジャガ(e)	イツチャネ(e) イツチャネジャロカ(e) イジャロ(a.b.d) イヤロ(b.c) イーコタネ(b)	ネツチャネ(c.e) ネジャロ(b.f) ネ(→)ヤロ(a.d) ネツチャガ(d)	シズカヤロ(e) シズカジャネジャロ(e) シズカジャロ(a.b) シズカジャワ(a) シズカジャネ(a) シズカナツチャガ(d) シズカナトオモツツジョジャガ(d) シズカジャガ(c)	ゲンキナジャロ(a) ゲンキナツジャロ(f) ゲンキジャロ(a.b) ゲンキナツチャロ(d) ゲンキナツチャネ(c)	キレージャロ(d.e) キレーヤツチャネ(c)	コイツチャネ(b.c.d.e) コイジャロ(a.f) コイヤロ(b)
推量形 b (念押し)	タケジャロ(c.d.e) タケジャネ(b) タケガ(a)	イジャロ(a.c.d.e) イト(b) イカツタヤロ(f)	ネガネ(b.e) ネジャロ(b) ネージャネ(f) ネツチャガ(b.d) ナイト(d) ネ(→)ヤロ(a.c) ネ(→)ド(a)	シズカジャ(e) シズカジャロ(b.d) シズカヤロ(a.c)	ゲンキナド(f) ゲンキナヤロ(b) ゲンキナジャロ(a.d) ゲンキナツチャロ(d) ゲンキジャロ(a.c)	キレージャロー(e) キレーヤロー(e)	コイヤロ(e) コイド(f) コイジャロ(a.c.d) コイヤロ(d) コイガネ(b)
テ形	タコツシエ(e) タケシテ(a.b.f) タケテ(f) タケツシエ(b.d) タケカツタカラ(c)	イーツシエ(d.e) イ(→)シテ(a.b.c.f) イカツタカイ(c)	ネ(→)シテ(a.b.c.e.f) ネツシエ(e) ネカツタカイ(d)	シズカデ(a.b.c.d.e.f) シズカナシテ(f)	ゲンキデ(a.b.c) ゲンキナシテ(d)	キレーデ(e)	コクデ(e) コイカラ(f) コイシテ(a) コユシテ(a) コイツシエ(b.d) コイクテ(c)
連用形	タコナル(b.c.d.e.f) タケナル(a)	イーナル(c.e.f) ユ(→)ナル(a.b.d)	ネ(→)ナル(a.b.c.d.e.f)	シズカンナル(a.b.c.d.e.f) シズケナル(a)	ゲンキニナル(f) ゲンキンナル(a.b.c.d)	キレーナル(e)	コイナル(c.d.e.f) コユナル(b.f) コナル(a)
過去形 (～カッタ)	タケカッタ(a.b.c.d.e.f)	イ(→)カッタ(a.b.c.d.e.f)	ネカッタ(a.b.c.d.e.f)	シズカヤッタ(c.e) シズカジャッタ(b.d) シズカナカッタ(a.d)	ゲンキジャッタ(a.d) ゲンキヤッタ(c) ゲンキナカッタ(a.b.d.f)	キレージャッタ(e)	コイカッタ(a.b.c.d.e.f)
連体形	タケ(a.b.c.d.e.f)	イー(a.b.c.d.e.f) ヨカ(d)	ネ(b.c.d.e.f)	シズカナ(a.b.c.d.e.f)	ゲンキナ(a.b.c.d.f)	キレーナ(e)	コユイ(e) コイ(→)(a.b.c.d.f)
仮定形 (～ケレバ)	タケケリヤ(a.b.d.e.f) タケカイ(c)	イケリヤ(→)(a.b.c.d.e.f)	ネケリヤ(a.b.c.d.e.f) ネカイ(c)	シズカナケリヤ(→)(a.b.d) シズカヤッタラ(c.e) シズカジャッタラ(a.d) シズケナラ(a)	ゲンキナツケリヤ(→)(f) ゲンキナケレバ(b) ゲンキナケリヤ(→)(a.c.d) ゲンキナラ(c)	キレージャッタラ(e)	コイケレバ(b) コイケリヤ(b.c.a.e.f) コユケリヤ(a)
当然 (～ハズ)	タケハズ(a.b.d.e) タケツチャネヤロカ(e) タケツチャネツカ(e) タケジャロ(c)	イーハズ(a.b.d.e) イージャロ(→)(c) イツチャネーヤロカ(c)	ネ(→)ハズ(a.b.d.e.f) ネージャロ(b) ネツチャネ(c)	シズカナハズ(a.b.c.d.e) シズカジャナイツチャロカ(e) シズカナド(→)(b) シズカナツチャネ(c)	ゲンキナハズ(a.b.c.d.e.f) ゲンキジャネツチャロカ(e) ゲンキナジャロ(f) ゲンキナツチャネ(b)	キレーナハズ(e)	コイハズ(a.b.c.d.e)
否定形	タコワネ(e) タカクネ(f) タケワネ(b) タケネ(a.d) タコネ(a.c) タケナイ(a)	ヨクネ(d.e) ユーネ(a.b.e) ユワネ(b) イーネ(b.c.d) イーツチャネ(c)		シズカジャネ(a.b.c.e) シズカナコタネ(d)	ゲンキヤネ(a.b) ゲンキジャネ(a.c)	キレージャネ(e)	コクナイ(e) コユクネ(b.f) コイネ(c.d) コユネ(→)(a) コユワネ(→)(a) コイワネ(→)(a)